

◆ 今週のコメント

- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.15(6例)で、第40週(10月4日～10日)以降は、過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、例年と同様に、1歳以下が8割以上を占めています(83.3%, 5例)。例年12月頃に流行のピークを迎えますので、今後の動向にご注意ください。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.29(12例)で、第33週(8月16日～22日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。今後の動向にご注意ください。全国でも本年は報告数が多く、第22週以降(5月31日～6月6日)、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、0.63(26例)で、先週に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 なし, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 1例), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 277例(肺結核 170例, 肺外結核 79例, 潜在性結核感染者 28例), (喀痰塗抹陽性 81例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例(第42週分)【1月以降の累積報告数 32例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 10例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.63	108
	② 水痘	0.63	26
	③ 流行性耳下腺炎	0.44	18
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	14
	⑤ 伝染性紅斑	0.29	12
	⑤ 突発性発しん	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

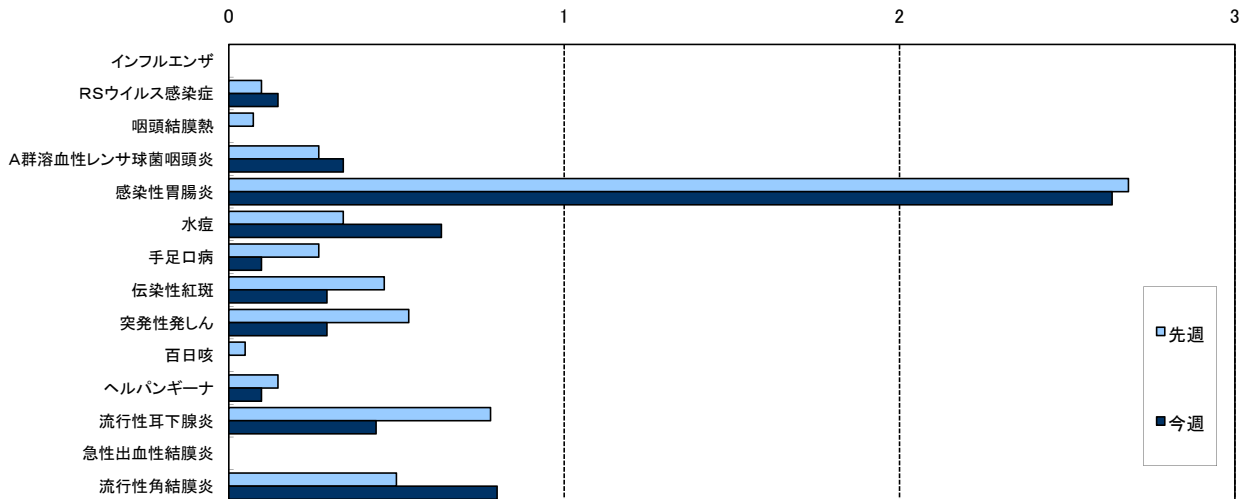
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注) 京都市のデータは、平成22年11月5日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

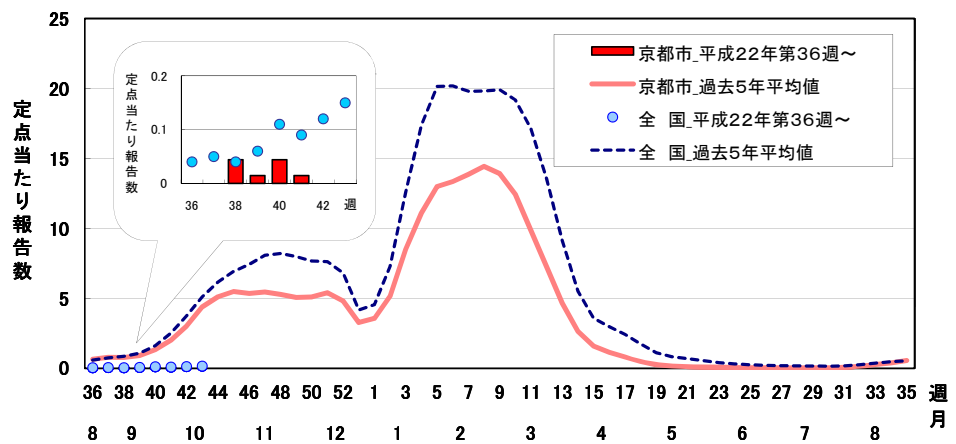
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

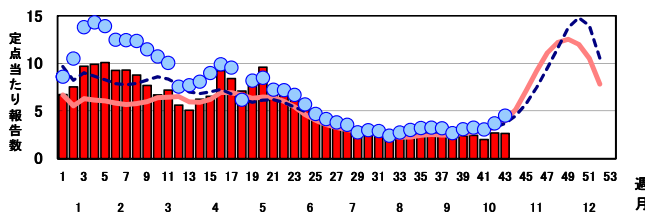
週	報告数(例)
第39週	1
第40週	3
第41週	1
第42週	0
第43週	0
累積報告数 (第36週以降)	8



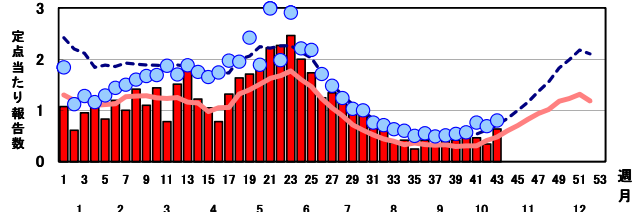
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

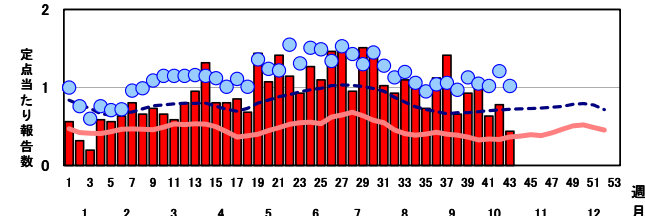
1 感染性胃腸炎



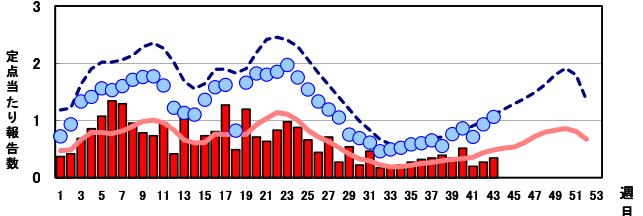
2 水痘



3 流行性耳下腺炎

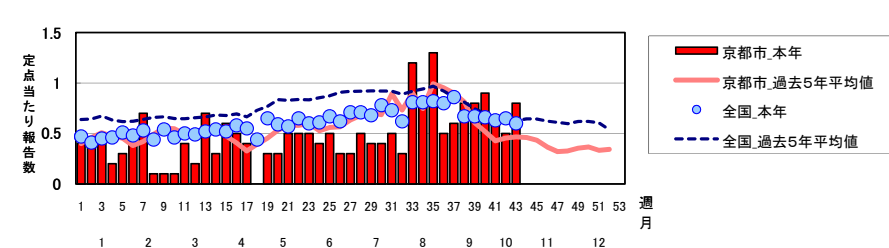


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



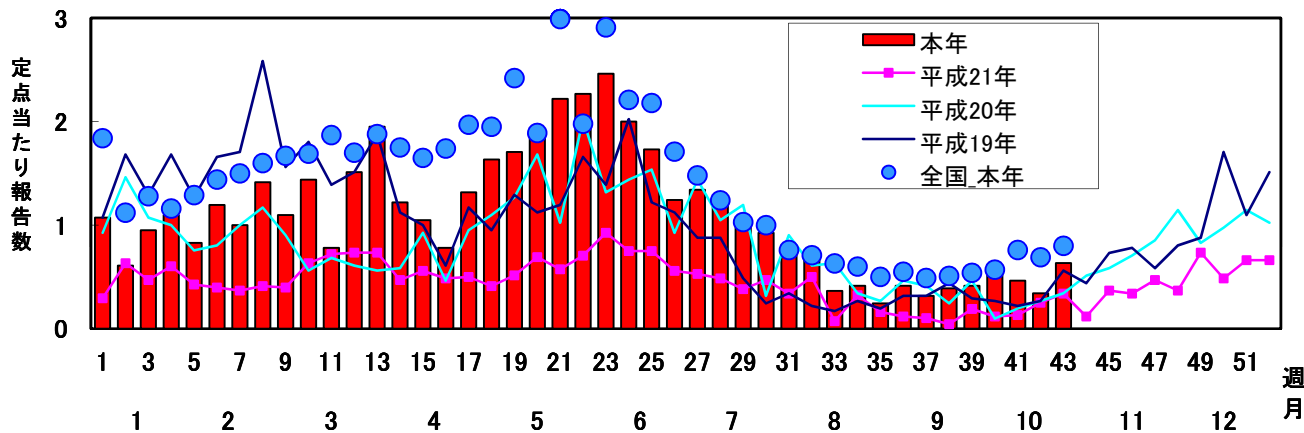
第43週(10月25日～10月31日)トピックス: <水痘>

定点当たり報告数は、0.63(26例)で、先週に比べ増加しています。水痘の報告数は、例年、夏から秋にかけて減少した後、冬季に向けて増加しますので、今後の動向にご注意ください。

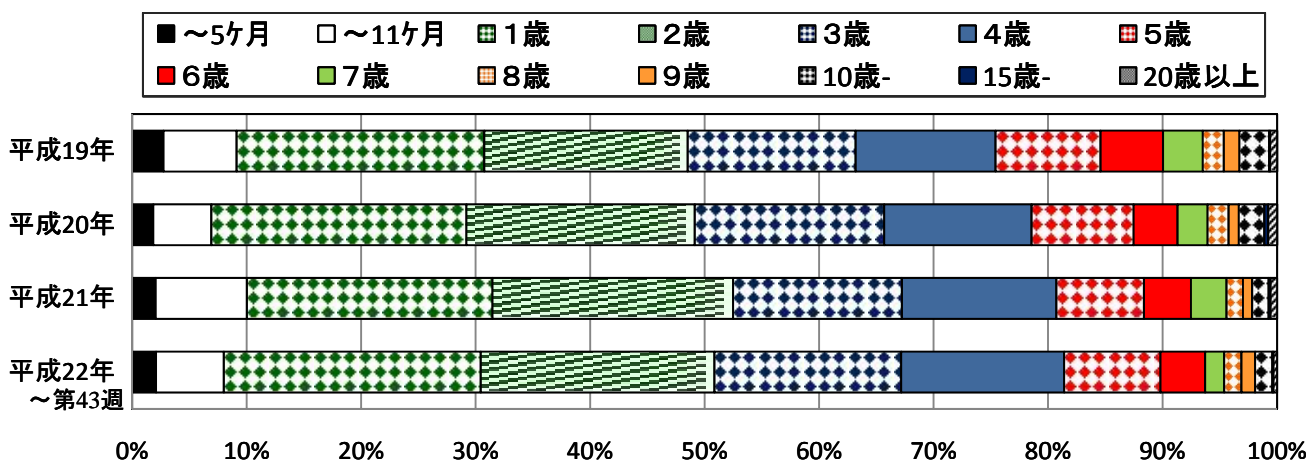
年齢階級別割合では、例年、1歳～2歳が最も多く、1歳～5歳が全体の8割近くを占めており、本年(第1週～43週)についても、同様となっています。

行政区別では、11行政区のうち、6行政区(北、左京、中京、山科、右京、伏見)で先週に比べ増加しており、伏見区が最も多くなっています。

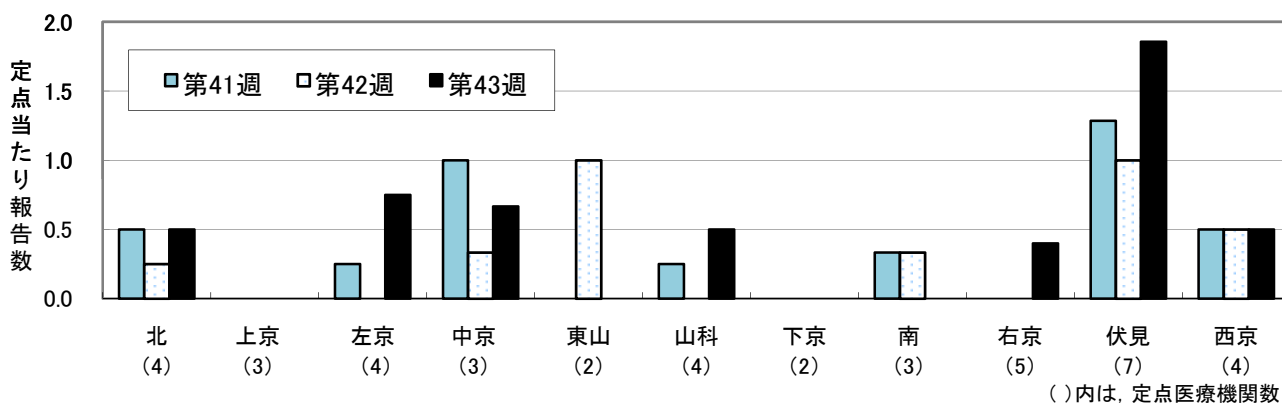
定点当たり報告数の推移(平成19年～平成22年第43週)



年齢階級別割合の推移(平成19年～平成22年第43週)



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数